

# 平成16年2月期 第3四半期業績概況

平成15年12月30日

上場会社名 株式会社 吉野家ディー・アンド・シー (コード番号：9861 東証第1部)  
 (URL <http://www.yoshinoya-dc.com>)  
 代表者 役職名 代表取締役社長  
 氏名 安部 修仁  
 問合せ先責任者 役職名 常務取締役BS(ビジネスサポート)本部長  
 氏名 折田 昌行 TEL(03)5269-5111(代表)

## 1. 四半期業績概況の作成等に係る事項

会計処理の方法の最近連結会計年度における方法との相違の有無 : 無

連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 有

(内容)

連結(新規)2社 ヨシノヤアメリカ・インク、ヨシノヤニューヨーク・インク

連結(除外)1社 株式会社ハミータコーポレーション

## 2. 平成16年2月期第3四半期の業績概況(平成15年3月1日~平成15年11月30日)

(1) 経営成績(連結)の進捗状況 (注)金額は百万円未満を切捨てて表示しております。

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
平成16年2月期第3四半期	106,751	-	10,376	-	10,829	-	5,712	-
(参考)平成15年2月期	145,979	2.2	14,378	10.8	15,041	12.4	8,598	91.4

	1株当たり 四半期(当期)純利益	潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益
	円	円
平成16年2月期第3四半期	9,298	-
(参考)平成15年2月期	13,484	-

(注)1. 売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同期増減率であります。

2. 四半期の業績概況は当第3四半期より作成しておりますので、前年同期との業績比較は行っておりません。

### [経営成績(連結)の進捗状況に関する定性的情報等]

当四半期における我が国の経済は、企業業績の良化傾向を背景とした株価の底打ち等、一部に景気回復の兆しは見られるものの、未だ本格的な回復基調にはいたっておりません。

外食産業におきましても、市場規模の縮小に加え、オーバーストアによる競争の一層の熾烈化により、既存店の売上高前年割れの状態が長期化し、一段と厳しさを増しております。

このような厳しい環境の中、当社グループでは業績の向上を目指し、積極的な店舗出店、セールスプロモーション、品質の訴求を推進するとともに、経営構造改革による経営の効率化を進めてまいりました。これらの結果、当四半期の業績につきましては、売上高358億48百万円、営業利益34億50百万円、経常利益36億50百万円、四半期純利益15億95百万円、当四半期までの累計では売上高1,067億51百万円、営業利益103億76百万円、経常利益108億29百万円、四半期純利益57億12百万円となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次の通りです。

#### 《牛丼関連事業》

牛丼関連事業につきましては、国内外合わせて新たに35店舗を出店する一方で、不振店3店舗を閉鎖し、当四半期末の店舗数は1,188店舗となりました。営業面では、上半期より実施してまいりました『サービス品質』向上活動に継続的に取組むとともに、販売促進策を実施してまいりましたが、競争の激化により既存店の売上高は前年割れの状況が継続しております。

海外の状況につきましては、米国が上半期同様に前年同期末より店舗数を減少させたものの、積極的な販売促進策や客単価アップ策を実施した結果、現地通貨ベースの売上高は前年を上回ることができました。一方、台湾につきましては、既存店売上高の前年割れが継続しておりますが、SARS(重症急性呼吸器症候群)の影響を受けた上半期と比較しますと大幅に回復しております。

以上の結果、当四半期の売上高は248億5百万円、営業利益36億51百万円、当四半期までの累計では売上高733億37百万円、営業利益110億17百万円となりました。

#### 《寿司関連事業》

当四半期の(株)京樽は、依然として既存店売上高の前年割れが継続しておりますが上半期より回復傾向にあります。出退店の状況につきましては、新たに2店舗を出店する一方で、不振店6店舗を閉鎖しました。この結果、当四半期の売上高は80億92百万円、営業損失15百万円、当四半期までの累計では売上高242億43百万円、営業損失2億39百万円となりました。

《スナック関連事業》

当四半期の㈱ピーターバンコモコは、上半期に引続き店舗運営力の強化や販売促進策を実施しましたが、既存店売上は前年を下回りました。一方、新業態を含む新設店の出店を積極的に実施し、当四半期末の店舗数は301店舗となりました。この結果、当四半期の売上高は19億88百万円、営業損失31百万円、当四半期までの累計では売上高63億円、営業利益93百万円となりました。

《その他飲食事業》

当四半期の㈱ポット&ポットは、既存店の前割れが継続しましたが、おかずの華及び㈱上海エクスプレスにつきましては、前年を上回ることができました。また、おかずの華を新たに1店舗出店した結果、当四半期の売上高は7億16百万円、営業損失1億25百万円、当四半期までの累計では売上高21億55百万円、営業損失3億78百万円となりました。

《その他の事業》

当四半期の㈱メンテナンス・リペア・サービスは、引続き牛井関連事業の店舗拡大と新規外部顧客の拡大が好調に推移したことから、当四半期の売上高は8億82百万円、営業利益23百万円、当四半期までの累計では売上高26億円、営業利益53百万円となりました。

(2) 財政状態(連結)の変動状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円
平成16年2月期第3四半期	99,208	63,552	64.1	112,194
(参考)平成15年2月期	106,974	70,472	65.9	112,399

【連結キャッシュ・フローの状況】

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
平成16年2月期第3四半期	12,141	1,521	13,604	23,817
(参考)平成15年2月期	8,912	2,821	2,792	26,936

[財政状態(連結)の変動状況に関する定性的情報等]

当四半期末の財政状態につきましては、総資産992億8百万円(前連結会計年度末比77億65百万円減)、負債の部合計340億69百万円(前連結会計年度末比3億83百万円減)となり、資本の部合計は635億52百万円(前連結会計年度末比69億19百万円減)となりました。

また、連結キャッシュ・フローの状況につきましては、以下のとおりであります。

当四半期における現金及び現金同等物は、換算差額を加え、期中の減少額30億8百万円、新規連結に伴う増加額1億23百万円及び連結除外に伴う減少額2億34百万円となり、第3四半期末残高は期首残高より31億18百万円減少し、238億17百万円となりました。

《営業活動によるキャッシュ・フロー》

当四半期における営業活動によるキャッシュ・フローは、前受金の減少(13億60百万円)及び法人税等の支払(33億62百万円)などの減少要因があった一方で、税金等調整前当期純利益(102億87百万円)、減価償却費(27億21百万円)及びたな卸資産の減少(20億75百万円)などにより、121億41百万円の増加となりました。

《投資活動によるキャッシュ・フロー》

当四半期における投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産売却による収入(30億68百万円)などの増加要因があった一方で、有形・無形固定資産の取得による支出(36億46百万円)及び投資有価証券の取得による支出(6億98百万円)などにより、15億21百万円の減少となりました。

《財務活動によるキャッシュ・フロー》

当四半期における財務活動によるキャッシュ・フローは、自己株式取得による支出(108億34百万円)及び配当金の支払(19億10百万円)などにより、136億4百万円の減少となりました。

(参考) 四半期個別経営成績等の概況(平成15年3月1日~平成15年11月30日)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
平成16年2月期第3四半期	66,003	-	10,518	-	11,077	-	6,069	-
(参考)平成15年2月期	86,513	1.6	14,515	7.6	15,267	7.0	5,558	2.9

	総資産		株主資本	
	百万円		百万円	
平成16年2月期第3四半期	75,935		64,193	
(参考)平成15年2月期	80,373		70,499	

[業績予測に関する定性的情報等]

12月24日に米国ワシントン州においてBSE(牛海綿状脳症)感染牛が発見され、安全性が確認できるまでの間、行政による米国産牛肉の輸入禁止措置が採られております。当社グループの主力業態でございます「吉野家」におきましても、牛肉総使用量の99%を米国から輸入しており、原料牛肉価格の大幅な変動や在庫不足等が発生することも見込まれます。従いまして、今後輸入禁止措置解除の時期等により、業績が大きく変動する可能性があるため、通期の業績予測につきましては、まとめ次第公表させていただきます。

以上